

種のまき方

種のまき方

すじまき(条は)



- ・板などでまく溝をつけて溝に種をまく方法。
- ・ハウレンソウ、コマツナ、シュンギク、コカブなどの小物の葉根菜類や、ネギ、タマネギ、キャベツ、ブロッコリーなどの苗床に用いる。

点まき(点)



- ・一定の間隔をあけてビンの底などで凹をつくり、3~5粒づつまく方法で、一株一株が大きく育つマメ類、トウモロコシ、ダイコン、ハクサイなどで用いる。

ポイント

- ・種をまく前に土の表面をていねいに平らにならしておく。
- ・は種したら、ふるった土を種子の3倍位の厚さにかけて軽く押さえる。
- ・種と土を密着させることで乾燥を妨ぐことができる。
- ・種をまく量が多すぎると苗が徒長し、間引き労力が多くなる。
- ・土かけ後のかん水は、細かいハス口を使って低い圧力で土が流されないように行う。
- ・平らなところにまくよりも、溝や凹を使ってまくほうが覆土が均一になり、かん水により種が流されにくい。発芽まではべたがけ資材(パオパオなど)をかぶせておくと土壌水分と温度が確保され発芽促進になる。

好光性種子は覆土を薄めに

- ・多くの野菜種子は、発芽するときには光を必要としない。中には発芽時に光が当たることで発芽が促進されるものがある。こういうものを好光性種子と呼んでいる。好光性種子は、は種が見え隠れする程度に薄く覆土するのがポイント。
- ・レタス、ゴボウ、シュンギク、ニンジン、ミツバ、セルリー、キャベツ、ハクサイ、カブ、コマツナ、シソ

種の種類

シードテープ

- ・種子を土の中で解けるテープにセットした種子。
- ・ネギ、ハウレンソウ、ニンジン、ゴボウ、ダイコン、など

コーティング種子

- ・種子を土の中で解ける資材(栄養分)でカプセル化したもの。
- ・ブロッコリー、ネギ、キャベツ、ハクサイなど

【徒長】
水分過多、日照不足などで、植物の茎や枝が軟弱に長く伸びること。
【べたがけ資材】
保温、防霜、防風、防虫のために梁を設けず、直に植物を覆う資材。軽くて通気性がよい。
【好光性種子】
種子の発芽にあたり、太陽光線が与えられると発芽を促進するものを好光性種子(光発芽種子)という。